

パネルディスカッション Panel Discussion

○天ヶ瀬正博 どうもありがとうございました。

済みません。司会進行が不手際で、あと10分しかないんですけども、せっかくですので、発表されたお三方に椅子を持って前に来ていただいて、質疑応答をお受けいただきたいなと思いますのでお願いいたします。

発表者をお使い立てして済みません。

済みません。10分ぐらいしか時間がないんですけども、フロアのほうから質疑お願いいたしたいんですけども。どなたか挙手をお願いいたしたいんですけども。今、お二方おられますので、ちょっと先、こちらの白い服の方。
○質問者 お話しありがとうございました。とてもおもしろく、完全な門外漢なんですが、すごくおもしろく聞かせていただきました。

「いのちの教育」で、プログラムがあってアクティビティがあって、その前後でアンケートをとって、意識変化が見られるとおっしゃっていたんですけど、その持続性というか、プログラム直後ではなくて、もっと後に同じような意識調査みたいなのはされてたりするんでしょうか。それがどれぐらい持続するものなのかなというのを、もし何かあれば。

○藤井敬子 そういったことをするとすごくいいんだろうなと思っております。実はこのプログラムが始まってまだ2年でして、経過をまだ追うに至っておりません。ですので、今回は実施前後しかとれてないので、例えばこのプログラムを2年生で受けた子が6年生になったときどうかということが調査で後追いができれば一番好ましいとは思っておりますが、なかなか現実問題としては難しいところです。ありがとうございます。

○質問者 ありがとうございます。

○天ヶ瀬正博 それでは、こちら側で手を挙げてくださった方、お願いいたします。

○質問者 失礼します。きょうはどうもありがとうございました。

アメリカのお話はもう本当に夢のような話だと思います。奈良県と和歌山県の話もすばらしいと思います。

私は広島県の県立の学校で教員をしております。個人的にはやっぱり殺処分の方がすごく嫌で、休みの日とかに、保護団体とか属さずに、個人でできることなんかをしてるんですけど、本当は学校でしたいんです。もちろん公民館とかで写真展とかをすれば、一般の方にも来ていただいて、本当にそれは効果があるとは思いますが、やっぱり目の前にいる生徒に話ができれば本当に一番いいなと思うんですけど、なかなかそれができない現状があって。

でも、奈良県なんかはすごく教員がうだ・アニマルパークに属していて、学校と動物行政とのパイプがスムーズというか、構図ができ上がっているお話を聞いて、そ

ういうシステムというか、そういうのがあればもっとできるのになと言ったらあれなんですけれど、広島県は、本当殺処分はその県で何とかしたいなと思うんですけど、学校でしたいんですよね、自分は。その突破口というか、今のところ本当にいい考えが浮かばなくて、どこと連携とってどういうふうにしたらいいのか、いいアドバイスがあったら聞きたいなと思いました。



○藤井敬子 すごく難しい質問で、私が答えていいのかどうかちょっとわからないんですけど。先生がなさりたいことがちょっといま一つ私には理解ができません。チムニーズのようなことをされたいと思ってられるのか、私たちが中高生プログラムでしようと思っていることをなさりたいのかということでまた違ってくるのかなと思うんです。

チムニーズのような動物を介在させてということをもしてお考えなのであれば、先生がずっと御説明されてたと思うんですけども、適正に管理された動物をきちんとしたルールの中で提供していることが一番大切なことだと思います。私たちが行っている中高生のプログラムでもそうなんですけれども、私たちの姿を見て子供たちは学ぶんだと思うので、動物を使う使わないとかというよりも適切な対処が動物になされているかだと思うんです。ただ単純に命を救うことではなくて、やっぱりよりよく生かすことができるかどうか。そうなったときのおのずと学校で、普通の公立の学校でできるのかどうかということではないかなと私は考えます。ちょっと答えになってるかどうかわからないんですけども。

奈良県の教育委員会との連携も、動物愛護センターでの処分という、本当に歴然とした事実があって、じゃあそれをそれこそどうやって減らしていくのっていったときに、いろんな方法があって、その中の1つとして教育があって、じゃあ教育をするのに教育者の力を借りるのはすごく当たり前の話で、その中に取り組んでいこう。

もう一つ、地域振興というのがあったと思うんですけど。地域づくりは非常に大事なことであって、人づくりは地域づくりだということで、地域振興も取り組んでい

こうという話になったんだと思います。ラッキーなことに、地域づくりには若干動物愛護よりもお金が付きやすいのかなというところで奈良県はスムーズにこういうプログラムが、結構お金がかかってます、できるに至ったのではないかなと考えています。済みません、ちょっと答えになってないかもしれないですが。

○天ヶ瀬正博 そのほかの御質問はございませんでしょうか。

今のお二つのお話、お二人からの御質問、関連していると、私は思っていて、持続が課題だということです。やっぱりそれは、小学校だとか中学校だとか学校との連携が、非常に大事であると思います。突破口という形で県としてやる方向はないのか、ということもあったと思うんですけど、今、藤井先生がおっしゃったように、学校が連携して下さることがすごく大きいだろうと思います。例えば、日本はどうしても教科の枠組みが大きいわけですけども、教科の枠組み取っ払って、グリーンチムニーズでやってたような理科の中にそういうのを持ってくる、あるいは社会科の中に持ってくるという形で入れてくることはできるだろうと思います。



私、うだのほうで一緒にやったときに教わったことは、学校の先生が図画工作の時間で犬のためのおうちをつくりましょうとか、あるいは豚のためのおうちをつくりましょうとか、ヤギさんのためのおうちをつくりましょうということをやると、やっぱり子供たち一生懸命考えると。そういう体験が日常的な実践へとつながっていく形で結んでいただけるのが学校の役割として大きいだろうと思いますし、まずは学校から「ベストプラクティス」をやっていたら、それを積み重ねていただくことが、あるいは県レベルに上がって新たなムーブメントになることもあるんだろうなと思いました。

ベストプラクティスについて、日本の教育プログラムとグリーンチムニーズとで観点が違うところがあるように感じました。日本のほうでは、ベストプラクティスは、私たち大人が仕事としてここまでやるのだということ、子供たちに見せるという提示の仕方、プレゼンス（存在）のあり方として、言っておられたように思います。その辺の考え方は、多分グリーンチムニーズは、お聞きすると、職業倫理として、やってる者の倫理としてという

面が強かったんですけども、子供たちに示すという点については、お考えが多分おありだと思うのでお願いいたします。

○木下美也子 今、皆さんからおっしゃったように、やっぱり子供は大人を見て過ごすと思うんです。やはりベストプラクティスにしても、自分たちのやってるこういういろんなプログラムの中で一番いいことを作るんですけども、そのためにはやっぱり毎日子供たちに、それがどういうことなのか体で見せて、知らせていくことになると思います。言葉で言うことよりもやっぱり見えます。絶対に見て、私たちのまねをして生きていく子供たちなので、それはもちろんやっぱりそういうふうにはベストプラクティスをビジネスとしてやろうと思えば自然についてくることだと考えます。

○天ヶ瀬正博 ありがとうございます。

つぎに、小寺さんに質問なのですが、奈良での取り組みとか、いろいろどんどん取り込んでおられますけども、そういうようなのは、どのようにして情報を得て、そして、どのようにしてすぐさま連携を築かれるのかということです。すぐにご自分のところに取り込めるのがすごいなと思うんですけども、何か秘訣等がありましたら、教えてください。

○小寺澄枝 今回、奈良のさんのお聞きしたのは、一番最初は近畿の動物管理関係事業所協議会という、全国の協議会がありまして、その近畿ブロックの会議のほうで、藤井先生がこういうのを奈良県でやってますというのを発表されまして、それを聞いてきた職員が、ええのあるよって教えてくれまして、これはぜひ見に行きたいなということで見に行かせていただいたときに、あっ、ちょうど今、普及するために自治体募ってるところなんですけど、和歌山県どうですかとお声いただきまして、教材はあげるよと言われたので、ありがとうございますということで参加させていただきました。

この私たちがやってる「わうくらす」は、複数時間、学校さんへお伺いさせていただいて行ってる事業でございまして、本当にたまたま10時間させていただいてる学校でちょうど3時間を導入させていただくことができたということでございますが、これからじゃあ全て行ってる学校で取り入れられるかはこれから検討していくことだと思います。

○天ヶ瀬正博 ありがとうございます。

グリーンチムニーズのほうも企業秘密ではなくて、どんどん公開という形でおっしゃっていただいていますので、奈良のうだの取り組みにしましても、そういう形でぜひとも利用していただければと思います。

やはり一番重要なのが持続であり、それから普及であると思います。倫理というものは、私たちが常に、毎日毎日繰り返しやっていくことによって備わっていくものだと思います。このたびFIFAのワールドカップサッカー会場で、日本人のサポーターがごみ拾いをやったのがありました。あれは世界を驚かせたと言われてい

が、あれは我々日本人からすれば、小学校のときから遠足行ったらごみ持って帰るというのをずっとやってきたことです。その繰り返しがおそらくそういうことにつながっているんだろうと思います。

そういうことを、ベストプラクティスとして、我々が子供たちに示していくことができ、繰り返し子供たちがそれを見ている。そして子供たちがそれをまねることによって倫理というものが備わっていくんだろうと思います。

現在の状況について、先ほどグリーンチムニーズの発表で生きた亀を閉じ込めてアクセサリーしている人たちがいるというお話ありましたが、人類の歴史の中では動物たちにとって非常にひどいことが今起こっていると思います。かつては、キリスト教の倫理の中では、動物たちの管理、あるいは自然の管理を人間に神が任せる形で、神に対して付託された責任として道徳があったわけです。

日本の場合は輪廻転生とかいって、あなたがいじめている動物や何かのもしかしたらあなたがそれになるかもしれない、あるいはあなたの御先祖様かもしれないということ言っていて、動物たちを大切にしてきた。あるいは鯨にしても熊にしても、神から与えられたものとして扱っていたということがあります。それらがなくなってしまったこの現在においては、私たちは、動物たちの福祉について教育によって学び、日々のプラクティス、実践として積み重ねてどんどんやっていくことで、グリーンチムニーズ、あるいは、うだ・アニマルパーク、そして、和歌山愛護センターのベストプラクティスを応援していきたいらと思います。

きょうはどうもありがとうございました。



○富永佳与子 天ヶ瀬先生、ありがとうございました。すばらしいセッションを本当にしていただきまして、ありがとうございました。座長をお務めいただきました天ヶ瀬正博先生に、もう一度拍手をお願いいたします。

また、本日演者をお務めいただきました木下先生、藤井先生、小寺先生、本当にありがとうございました。

そしてもう一方、実は先ほどから、教材を奈良県さんからいただきましてというお話が何度もあったんですけれども、本日のサポート企業、マースジャパンリミテッ

ドさんから実はいただいたものでございます。マース様、そちらに7井様、お見えだと思いますので、御起立いただいたら。このおかげで奈良県「いのちの教育」がいろいろな自治体に普及させていただくことの第一歩を始めることができました。本当にマースジャパンリミテッドさんに皆さんでお礼をここで申し上げさせていただきたいと思います。マースさん、本当にありがとうございました。

マース様からいただいた御支援をもとに、またこれから、ここにありますように、教育はきょうやったから、あしたやったからというものではないと思います。子供たちに命を伝える試みということで、始まったばかりのトライアルを続けていかれる先生方にもう一度拍手をいただきまして最後とさせていただきたいと思います。皆様、本日はありがとうございました。

引き続きまして、閉会式が和楽のほうでございますので、御移動賜りましたら幸いです。アワードの表彰を行います。

○藤井敬子 済みません。1つ申しおくれました。奈良県の「いのちの教育」プログラムの研修会が奈良県うだ・アニマルパークで10月3日と11月4日、実際の授業を御見学いただけます研修会を企画しております。詳しくは、奈良県うだ・アニマルパークのホームページを見ていただきましたら詳細は載っておりますので、どうぞ皆さんよかったらこの機会に実際の先生方の授業を見ていただきたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

済みません。まだホームページにはアップされてないそうです。近々アップの予定ですので、またこう御期待でお願いいたします。